
【世界樹の迷宮～異界孕む混沌樹の王～】

超臣蔵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【世界樹の迷宮〜異界孕む混沌樹の王〜】

【Nコード】

N4033X

【作者名】

超臣蔵

【あらすじ】

その世界樹は、【異世界の記憶】を孕んでいる…。

王都パルテニア。かの地に佇む世界樹の根元に広がる迷宮に、数多くの冒険者達が挑んだが、生きて帰って来る者は少なかった。それでも、噂を聞きつけて内外から多くの冒険者達が訪れ、そして挫折を味わって去って行った。

これは、一隻の商船に乗ってやって来た新米冒険者の、冒険活劇の

始まりである。

※この作品は、作者の自己満足で書かれている為、ご容赦ください。

【プロローグ】（前書き）

と、とうとう出しちゃった…。でも、反省も後悔もしないっ!!それが私のスタンスっ!!!!

…なんて、ついついはっちゃけてしまった超臣蔵です。

にじファンの【世界樹の迷宮】小説の少なさに、私は驚いてしまいました。

亀更新&一つも終わってないのに新作を書く節操のない私ですが、書いた以上はきっちりと完結まで書こうと思います。

…それでは、スタートっ!!!!

【プロローグ】

～プロローグ～

・
・
・

その世界樹は、【異世界いせかいの記憶きおく】をその身に孕くはんでいる…。

エトリア、ハイ・ラガート、そしてアーモロード。【大異変】以降、各国のシンボルともなっている巨樹は【世界樹】と呼ばれ、その根元に広大な迷宮が広がっている。その為、人々はそこを【世界樹の迷宮】と名付け、多くの冒険者達により開拓・制覇された。

そしてここ、【王都パルテニア】にも世界樹がそびえ立っており、その根元に広がる迷宮を制覇すべく多くの冒険者達が潜って行ったが、生きて帰って来る者は少なかった。

生き残った者達の証言では、【あの迷宮は、まるで魔境まきょうだ】と述べた。鳥獣達の支配する密林、氷像が道を阻む極寒の氷窟、狂暴な獣竜達が潜む熱砂の洞窟。

そして、地底にて冒険者達を阻む謎の異形の影が冒険者達を阻み、それ以上奥へ進む事はできなくなってしまった。

それが【大異変】直後の話である。やがて当時の王都の関係者は、それらを【ヨミビト】と呼んだ。

だが、それでも冒険者達は困難に屈せず、多くは夢を求めて、多くは一攫千金を狙って、次々と迷宮に挑み続ける。

さあ、君もかの迷宮に挑み、見事制覇して見せよ！！

・ ・ ・
ザザァー…ザザァー…。

蒼い空、蒼い海。真上には、燦々と照りつける憎々しい太陽。

??? 「…ハアア…いつになったら、たどり着くんだ？」

この商船に乗せてもらって、かれこれ一週間。目的の【王都】まで、普通なら三日でたどり着ける筈が…海賊船がうろついていた為に、俺が乗ってる商船は正規のルートから、大きく迂回しなきゃならなくなった。

もちろん、こうゆうアクシデントが予測できるものなら、途中で【食糧不足】という事態には陥らなかっただろうなあ…？まあ、一人甲板でだれていたら運良くウミガメがプカプカと海上に浮かんでいたのを発見し、捕らえる事ができたので何とかあったが…。

「よう、その少年。そこで何を黄昏てんだい？」

??? 「ああ、船長。あとどれくらいで、王都に着きますか？」

そこへ、この商船の船長さんが俺に語りかけて来た。

やや太めの体形で、蓄えられた髭の長さからしてそこその年齢に達しているのだろうが、その目からはあまり老いを感じさせる事はなかった。

いくつ歳を取ろうが、彼は海の男。その経験則に則^{のっと}って、商船のクルー達をまとめあげているのだから、ホントにすごい人だと俺は思う。

船長「んゝゝもう少しの筈なんだが…やはり海賊船のいた海域から、大きく道を外れたのが仇になったか…。しかし、あの時は他に海路は見つからなかったからなあ…？」

「???」でも、おかげで俺達は今こうして生きてるんすから、船長の判断は正しかったって事っすよ。まあ、食糧不足という危機に陥った時はマジでヤバかったっすよね…？」

船長「…あく、そうだなあ…。あの時、お前さんが見つけたウミガメがなかったらワシ等はあのまま干物になっちまってたかも知なあ…？ハハハハ♪」

船員「おゝい船長おゝ！！見えましたぜえゝ！？」

すると、俺達の頭上――マストの見張り台からこの商船の船員の声が響いた。

一体、何が見えたのか。そんな事、【世界樹】に決まってる！！

すぐさま船の先端に駆けつけて、海を見渡す。その時、俺の目に飛び込んだのは、水平線の先に悠然と佇む巨大な樹だった。

交易都市バタビアから、冒険者になる為に実家を飛び出して、商船に乗せてもらって…………

ついに…ついに、やって来たぜ！！【世界樹の迷宮】に…！！！！

・
・
・

これは、ある【世界樹の迷宮】に挑む為、故郷を飛び出して来た元農民の少年と、その道中で出会い集う仲間達が繰り広げる、冒険活

劇の始まりである。

t
o
b
e
c
o
n
t
e
n
t
s.

【プロローグ】（後書き）

超「今回から、ニコ動の投稿動画でもよくある三行次回予告を今更ながらも導入してみようと思います♪」

- ・冒険者ギルドで、ウォリアーの基礎を叩き込まれる。
- ・折角だから、自分でギルドを新設してみよう。
- ・結果、メンバーは元農民ウォリアーの少年と、地元生まれのモンク娘の二人だけ。

超「…………自分で言うのも難ですが、大丈夫でしょうか。と、ともかく次回をお楽しみに♪それでは、また。」

【第一話】（前書き）

第一話更新♪カオシックス・レジエンドも、近いうちに更新しないと
…。

【第二話】

【第一話】

・
・
・

【王都パルテニア・漁港】

??? 「――よっ、と。」

俺は、ついに王都パルテニアにたどり着いた……!!……一体どれだけ、この瞬間を待ち望んだ事か……!!?

船長「いやー。無事、王都に到着で来て良かったなー?…さあ、早速積み荷を降ろすぞー!!?」

船員一同「おうっ!!!!」

感慨に浸っている俺の後ろから、船長が続いて降りて来て船員達に商船の積み荷を運び出す様、指示を出している。

おっと、こうしちゃいられねえっ!!? 早速、ここの【冒険者ギルド】に行かなきゃ!?

??? 「船長!!! お世話になりましたー!!! 縁があったら、また会おうぜー?」

船長「おうー!!! 少年も、夢がかなうと良いなー!!! 縁があったら、また会おうー!!」

俺は船長と別れて：一路、王都に乗り込んだ。早速、冒険者ギルドに行かないとなっ♪

・
・
・

受付嬢「ようこそ、冒険者ギルドへ。私は、当ギルドで受付を担当しております。

早速ですが、こちらの書類に名前と年齢、性別。そして、あなたの希望する職業をお書き下さい。それが終わりましたら、その技術を教えてもらうために各職業に応じた訓練施設へと教官さん達が案内しますので、送れない様にして下さいね？

……：パルカⅡクエスト様ですね。お歳は：16歳。お若いですね？：で、職業は：ウォリアーですか。貴方の場合、フーマーの方が……」

パルカ「……：いや、顔で判断されても困るんすけど……。一応、槌を振るえるだけの筋力がありますよ？」

受付嬢「これは失礼致しました。では、少々お待ち下さい。ウォリアー専門の教官さんをお呼びいたしますので……」

パルカ「了解っと。」

……：で、待つ事数分。やって来た教官は、バリバリ現役のこの国所属の冒険者との事。そして俺を見て、先の受付嬢と似た様な事を言いやがった。

俺だって……好きで、こんな顔に生まれたんじゃないやっ！！？

気を取り直して、教官に案内されてウォリアー志望者の集まっている訓練施設にやって来た。

…案の定、その場の全員が奇異の視線で俺を射抜いて来る。だったら、あんたらの度肝を抜いてやろうじゃないか……!!

そう思い、俺は目についたバーベルーと言っても、100kgと表記されているがーに近づき、片手で掴む。

周りの奴等は、持ちあげられる筈がないと言いたげな目で俺を見ている。今から、持ち上げてやるよ？

『片手で』、な？

・
・
・

結果、周りの奴等はおろか教官すら驚愕の表情を露わにしている。

そりゃそうだろうな？ 屈強な冒険者でも、重量こそが特徴の槌を両手で持たなきゃ振るえないのだから。

それを、従来の冒険者に比べてやや細めな俺の腕で、100kgのバーベルを片手で持ち上げられた日には……

教官「…こ、今年はバケモノみたいな奴が一人いた…。俺でも、両手で持ち上げるのがやっとなぞ…？」

パルカ「おぉー♪さすが先輩っスね〜？」

教官「…いや、見かけで判断したりして悪かったよ…。(こりゃあ…もしかすると、コイツは将来かなりの大物になりそうだな…?)」

教官が心中でそんな事を考えていたとは、俺は知る由などない。ともかく、これがきっかけで俺は即合格。晴れて、この国所属の冒険者となった。

さて…折角冒険者となつたのだから、まずやらなければならない事がある！！

それは……………

パルカ「すいません。ギルドってどうやって作ればいいっすか？」
受付嬢「…はい？」

・
・
・

てな訳で、早速俺は【ギルド】を設立した。名前は【アルティナ】だ。だが…………

他の熟練冒険者はすでにギルドメンバーとなつてゐる訳だし、かといつて訓練施設でやっちゃった【100キロバーベルを片手で持ち上げ事件】で、新人の皆さまは誰も俺と組もうとはしない訳で…………

つまり、俺のギルドは決定的にメンバーが足りないっ！！！！

まあ、無名の新設ギルドなうえに、先の訓練施設でのあれが原因なのだし…そもそも俺がやっちゃったんだし、こりゃ自業自得って事だな…。

ともかく、迷宮の探索には仲間が必須。単独で挑むには、あそこは危険すぎる。…何故俺が、そんな事を知っているのか…

実を言うと、俺の両親は元冒険者だからな？両親から、よく若い頃の冒険譚を聞かされて良いな…って思つて…………で、俺は冒険者を目指してゐるって訳だ…。

だから、両親から仲間の存在は迷宮の探索においてとても大事な事だとも聞かされてゐるから分かるんだ。

そこで、【冒険者ギルド】に程近い所にある、酒場兼宿屋の【金鶏

のトサカ亭】に向かった。

宿屋は、冒険者達の寝泊まりに必要な場所。まあ、実力が認められればその分、宿泊料が増えるのはなあ…？

酒場は、色んな客から多くの依頼が集まるから、自然と冒険者達の溜まり場となっている。ここなら、もしかしたら俺と組んでくれる奴にも会えるかもしれない。

期待と不安が胸の中で渦巻くが、俺はそれを押し殺して酒場に入った。が、その時の酒場の惨状を見て、俺は心の底で酒場に入った事を後悔した。

一体何が起こってるのかは、次の台詞で想像してほしい。

「あんた達、酒場で喧嘩すんなってあれ程言っただろうがああああっ！！！？魔物より先にあたしに殺りたいのかい、ええっ！！！？」

「店長！！落ち着いて下さいっ！！！？お客さんが、ギブアップ宣言してますから！！泡吹いてますからっ！！？」

「ぎゅ…ぎゅ…ぎゅぶぶばがばば…」

……………。

店長「ええいつ、邪魔するなデン！！そもそもこの阿呆が…うんっ？」

デン「あ、ほらっ！新しいお客さんも来てますから、もうその辺で…、ホントに申し訳ございません。大変、お見苦しい所をお見せして…」

パルカ「…あ、いや…その…一体、何が…？」

・ ・ ・

店長「あっはっはっ♪怖がらせちゃって悪かったねえ？」

デン「もう、店長：いくら何でもお客さんに注意するだけで、あんな取っ組み合いに発展させなくても：。」

先の騒ぎからしばらくして、俺はカウンター席に座って先ほどの状況を作った張本人：元冒険者で現在はこの街で、宿屋兼酒場の店主をやっている妙齢の女性：【クララ】さんと、同期の元冒険者で現在は酒場のウェイターを務めている【デン】さんと話している。

何故あんなったのかと言うと、酒場でたむろってる冒険者達が酒の勢いで口喧嘩を始め、そこから殴り合いに発展しそうになったのでクララさんが止めに行ったら：……

冒険者1『ああ？！オバサンは黙ってな！！』

冒険者2『そうだそうだ、ババアはそこで見物してな！？』

何て言われて頭に血がのぼって、俺が入って来た時にはあの様な惨状になってしまった：と、いう訳である。元が付くとはいえ、泡吹くまで首締めあげるとか：どんだけ？

クララ「だってさ、アイツ等失礼じゃないか！？こんな綺麗なレディーを捕まえて：ババアなんて、いくら何でも酷いとは思わないかい？」

デン「それでお客さんをシメるなんて、自ら稼ぎを減らしてる様な物ですよ、店長？いくら日常茶飯事になってしまってるとはいえ、少しは自重して下さいよ。」

溜息混じりにデンさんがクララさんに注意を促すが、当の本人は知らん顔。つまり、この酒場で起きる騒ぎは【この街では、いつもの事】で済まされるらしい。

滅多な事を言って、俺も魔物よりクララさんにあの世に送られない様に、気をつけよう…。

クララ「おい坊や、今何か失礼な事考えてなかったかい？」

パルカ「いいえ、何にも。」

デン「先のお詫びと言っては何ですが、その装備からして初心者何でしょう？でしたら、ここには仲間を探しに来た、と言う訳ですよね。」

おお！さすがデンさん♪話が分かる♪

デン「しかし、見つかる確率はかなり低いですね…。あなたの所望する仲間が、いつ見つかるかどうか…仲間になってくれるかどうか…」

パルカ「ちよっ、不安を煽る台詞はやめて下さいよ…?」

デン「ああ、すいません。昔はゾディアックをやっていましたもので…。」

クララ「ちなみにあたしは、」

デン&パルカ「ウォリアーでしょう?」

クララ「ハモるなっ!!?」

ガチャッ!

??「クララさ〜ん♪私、合格したよ〜?」

クララ「ん?…おお、【モモ】じゃないかい。あんたもとうとう、冒険者になったのか…。」

ん？入口から女の子の声……。クララさんが嬉しそうって事は、知り合いか何か？

デン「ああ、実は：昔この街に移り住んで、モンク志望者達の為の道場を開いている方達の娘さんで：【モモⅡレイホウ】さんと言う方ですよ。」

モモ「あれ？デンさん、この子は？」

声の主の姿を一目見ようと、顔を向けると…………

モンクの代表的ファッションである道着を着こなし、赤毛を後ろで三つ編みおさげにしている少女がいた。

しかし、俺の目はモンクにあるまじき一点に、つい目をやってしまっていた。な、何て胸をしてるんだ……！！

デン「ああ、彼は……」

パルカ「俺の名は、パルカ。パルカⅡクエントウス。現在、ギルド

【アルティナ】のメンバーになってくれる冒険者を、絶賛募集中。」

できるだけ平成を装い、自己紹介をする俺。

モモ「へえ……自分でギルド作っちゃうなんて、すごいねえ？」

パルカ「：つつても、訓練施設でついやらかしたのが響いて、なかなか仲間が見つかんなくて……。それで、ここに來たって訳さ。ちなみに、俺の職業はウォリアーだが……」

モモ「私はもちろん、モンクだよ？」

パルカ「だったら、俺のギルドに入る気はないか？正直、迷宮に単独で向かうのはかなり危険な予感がするからさ？」

クララ「…アイツ、もしかして親が元冒険者だったってクチかい？」
デン「…の样ですね。まあ、この手の方達は案外少ないですけどね…？」

回復・前衛を兼任できるモンクがいれば、長時間の探索も難しくはない。できれば、今ここでうちに加入させたい…！！

モモ「ん…、良いよ？」

パルカ「本当かつ！！？ いやったあゝ♪」

モモ「おおうっ！？ 何か知らないけど、すごい喜んでる…。そんなに寂しかったんだね？」

何か妙な誤解をされてる気がするが、とにかくこれで一人目の仲間ゲット♪

さて、次は装備を充実させたいトコだが……

クララ「その前に、国に認められないとだねえ？ 王宮からの【ミッション】はすでに出てるから、しっかりやってももらわないとねえ？ 店を利用できるのは、その後だよ。」

デン「私の勝手な推測ですが、お二人なら無事に帰って来るだろうと信じてますよ。」

…と、経験者達は語る。とりあえず、どんな【ミッション】なのか見せてくれませんか？

クララ「はいよ。と言っても、初心者はこんなのぐらいだけだね？」

クララさんに手渡しされたミッション内容の書かれた紙に目を通すと…

【ミッション・樹海の序曲】

・故度の任務は、貴君達の実力を確かめる為、迷宮の地図を製作してもらう。迷宮に挑む者の最初の難関であるから、心して挑む様に！！

詳しい事は、現地にて説明する。以上！！

と、書かれていた。

パルカ「地図の製作か…。」

モモ「やる？」

パルカ「もちろん！！その為に冒険者になったんだからな…？それじゃあ、ギルドに登録してから出発だ！！」

モモ「お〜♪」

早速ミッションに挑む為、まずはモモのメンバー登録をしに、冒険者ギルドに向かわねばっ！！！！

そう思った俺は、モモを連れ立ってギルドに向かうのだった。

クララ「元気だねえ…？これが若さ、か…。」

デン「店長、今のは年寄り臭い台詞ですよ？」

クララ「うっさい。」

・
・
・

【第一階層・緑魔の密林】一階

ギルドメンバーの登録、ミッションの参加登録を済ませ、早速現地に赴いた俺達【アルティナ】。

つつても、メンバーはたった二人だけどね…？

ともかく初めて入った迷宮の感想は、ただ【スゴイ】の一点張りだった。周りの植物は皆、外じゃ見かける事がない物ばかり。

色とりどりの花を咲かせて、まるで俺達を歓迎しているかの様な…

…

モモ「パルちゃん、早く行こうよ？」

パルカ「はっ！？ いかんいかん、すぐに行く…ってか、何だそのあだ名…？」

モモ「いいから、早くう。」

モモに急かされ、多くの冒険者達や魔物達によって平らに均されている獣道を歩く。しばらく進むと、こちらに気付いたのか鎧を纏った衛兵さんが、俺達に向かって手を振っていた。
早速、衛兵さんの所に歩み寄る俺達。

モモ「こんにちは♪」

衛兵「やあ、こんにちは。君達が、今回のミッションに参加したギルドだね？」

パルカ「はい。俺達は、ギルド【アルティナ】の者です。」

衛兵「やはりね？ 実は、向こうからの報告で【訓練施設で100kgバーベルを片手で持ち上げた、ファーマーみたいな顔の少年ウォリアーがギルドを築いた】って聞いたから…」

パルカ「それ、誰が言ったのかは容易に想像できます。」

モモ「へえ、そんな事したんだあ…。カワイイけど、カッコイイ♪」

………コイツの価値観は、カワイイかどうかなのか…？ともかく、

衛兵さんに地図を受け取らないと…。

衛兵「ああ、そうだった。ミッションだったね？えっと…あったあった。はい、どうぞ。」

そうして受け渡されたのは、白紙の地図と羽根ペンだった。

つまり、自分の足で地図を作成していく事。これこそ、俺の両親も通った道だと思うと、俄然やる気が出て来た。

モモ「地図描きながら冒険するの？」

衛兵「ええ、その通り。冒険者たる者、自分の足で地図を作成していく事。これこそ、冒険者の醍醐味なのだからね。ある程度、地図が出来上がったら私に見せに来てくれ。それで私がいいと言ったら、それでミッションは成功だ。それでは、頑張ってくれたまえ！」

・ ・ ・

早速、足早にあちこち歩き回って地図に記入していく俺。【地図を制する者は、樹海を制する！】、と親父も言っていたからな？ぞんざいな地図だと、死者を出し兼ねないだろうからしっかりと詳細に……

モモ「あつ、パルちゃんパルちゃん！魔物だよ！？」

パルカ「ああもう、これで三回目だぞ！？作成の邪魔されんの！！」

地図を書きながら歩いている最中、すでに二回程魔物達の襲撃を受けた。が、どれも見事に撃破。

一回目は、俺の短剣二刀流で魔物達を牽制し、その隙を突いてモモ

が中心めがけて突っ込んで、真ん中にいた森林ガエルに拳一発。続いて俺の二刀流攻撃で残りのカエルやお化けドリアンを蹴散らす。二回目は赤い鱗の魚の魔物だったが、これもモモが壊炎拳を炸裂させてハイ終了。

しかし、こうも連続しての襲撃はちと勘弁。地図描いてる時に攻め込まれるのは何ともし難いものである。俺の両親も、こんな気持ちに苛まれたのかねえ…（ドゲシッ！）ぶふっ！？

モモ「パルちゃん!!」

痛え…!! 顔を蹴られたのか…!? で、俺の顔を蹴った張本人さんを見ると…………

でかい鶏の魔物だった。外見的特徴は外の鶏とそんな大差はないが、唯一の違いは【俺の腰程まで】ある体長だ。確か、王都の名物料理や衣服類の材料になるという【コッコ・パピー】という魔物だったな。

…あれ? いつの間にか、コッコ達に囲まれてしまった!? しかも5羽!!

コッコA「コケーッ!!」

コッコB「コッコ、ケーッ!!」

モモ「せいやっ!!」

パルカ「なろっ!？」

ドガガッ!!ズバッ!!

コッコ達「ゴゲエエエエッ!!?」

すぐに武器を構えて、飛びかかって来た2羽を俺とモモで撃破。1羽は俺の二刀流攻撃で、もう1羽はモモの蹴りが急所にクリティカル・ヒットし、どちらも絶命。

ったく、さっきはちと冷やっとしたぜ。まあ、これで残り3羽。気を引き締めてかからねば……！！

コッコC「コッコッ……！！」

コッコD「ケエーッ……！！」

コッコE「コッコッコッコッ……！！」

向こうも、いきなり2羽も殺られてしまったからか、こちらの様子を伺っている。だが、この状態もそう長くは続かないだろう……。次で決めるぜ……！！？

コッコ達「コケエエエエッ……！！！！」

パルカ「そらあっ……！！」

モモ「壊っ炎っ拳……！！」

ズババッ！ドガガガッ……！！

・
・
・

戦闘後、冒険者にとってお馴染みの魔物から素材をはぎ取る作業を終える俺達。

【パピーフェザー】やら【肉厚の鶏脚】やら、それに【赤い鱗】などの色々な素材が手に入ったから、専用ポーチは結構膨らんでいる。

パルカ「よし、こんだけはぎ取っておけば良いだろう?」
モモ「ねえパルちゃん、地図の方は?」

パルカ「ああ、そろそろ衛兵さんのいたトコに戻って見てもらおう
ぜ?」

モモ「りょうかい♪」

こうして、俺達の迷宮での初戦闘・初探索は、衛兵さんからの合格
の言葉をもらう事で無事終了した。
これで、俺達のギルドは正式に認められたという訳だ。

明日から、忙しくなるぞー♪

t o b e c o n t e n t s .

【第二話】（後書き）

超「さてさて、主人公とその仲間第一号登場、そして初ミッション攻略です。」

パルカ「しかし、さすがに地図描きながら進むってのは…。」

モモ「頭打ちそうだからねえ…？」

超「さて…世界樹の迷宮？の進行状況ですが、現在は海都ルートで行くべきかと思います。図鑑の完成とかせたいし…。では、次回予告♪」

- ・アルティナ、二階に進出。

- ・FOEに無謀にも立ち向かう女フアランクスを助ける。

- ・フアランクスを仲間に入れる。

パルカ「…二階に下りて、いきなりFOEと戦う羽目になるとは…。」

モモ「だ、大丈夫だよね…？」

超「ともかく、次回をお楽しみに♪それでは、また。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4033x/>

【世界樹の迷宮～異界孕む混沌樹の王～】

2011年11月20日16時08分発行